

参加人数：10名、マスコミ2社（信毎、小諸市）  
場所：ステラホール

質問者	No.	質問	回答	回答者
参加者 A	1	説明時に画面が途中で切り替わってしまい分かりにくかったこともあり、説明資料のPDFデータをいただきたい。	水みらい小諸のホームページへ、アンケートの結果と併せて掲載させていただくことで了解いただきたい。	MMK
	2	水みらい小諸設立に向けては1年2年かけて官民連携を議論し、設立目的を以って4年半進めてきたと思うが、進捗率は当時のビジョン、ミッションの何%ぐらい到達したか。今後何年あれば8割9割と進むか。	当時の一番大きな目的は人材育成で、最終的に出向者全員が引き上げて地域の方が線となって今後20年30年と水道を支えていく仕事を進めていってくれること。現在、地元雇用のプロパー社員が9名、出向者が14名ほどだが、第1期目としては、まず上水道課の進めてきた業務をしっかり引き継ぐことだと考えている。次のステップとしては、出向者が引き上げても管理、マネジメントができる体制作りと、ITの活用など次の時代の在り方を見据えた事業を進めていくことだと考えている。そういう意味では第1期4年半は目的に達しており、次の5年間で問われていくことになると思っている。	MMK

参加人数：9名、マスコミ2社（コミュニティテレビこもろ、水ing）  
場所：ステラホール

質問者	No.	意見、質問等	回答	回答者
参加者 B	1	公民企業体の設立に何年もかけて市民と交流して立ち上げてきているが、最近ではコロナもありやむを得ない部分もあるが、市民に密着した重要な水道事業に関わらず、今回の報告会の参加状況からも市民の関心が低くなってきている。今後、水道料金が上がる可能性があると思うが、公民企業体になって収益はうまくいっているのか、また水みらい小諸の運営はしっかりまわっているのかお聞きしたい。	これまで水道事業を市が進めてきていたが、人材育成がうまくいってなかったこともあり、事業を継続していくために、水みらい小諸を設立した。現在のところは順調に進んでいると感じている。今後水みらい小諸としてプロパー職員を増やして育てていかなければならないし、小諸市からも派遣していく、また小諸市の方も人材を育て水みらい小諸を管理していく必要があるのでは、そういったことも含めて人材育成を進めていく。 料金のお話もあったが、水みらい小諸になったから料金が上がるのではなく、全国的な課題となっている老朽管の更新の問題があり、今の状況だと100年使い続けることとなるが、少しでも改善できる方針をとっていかねばならない。そういったことから水道料金の値上がりはしなくてはならないことだと考えている。 直ぐに値上がりということではなく、今後どこから更新していくか計画的に進める必要がある。	小諸市
	2	老朽管の更新をしなくてはならないということを、1年2年かけて市民にも提案して欲しい。その中で水道料金をなぜ上げなければならぬかということから、しっかりやっていただきたい。		
参加者 C	3	設立当初から株主は変わっていますか。	配当割合も含めて変わっていない。民間主導となるよう民間の出資が大きいということ、官が3分の1以上の株を持ち、民だけでは進めていけないよう官の役割もしっかりはたすようにしている。	MMK
	4	取締役会の頻度は	年に4回、四半期ごとに財務運営状況を報告し、チェックを受けている。 重要な案件がある時はその都度、臨時開催をしている。	MMK
	5	水みらい小諸として、取締役になっている現役の建設水道部長に役員報酬を支給しているか	役員報酬は支給していない。	MMK
	6	令和4年度の売上が36,300千円あるが、赤字黒字のどちらか。黒字であれば、株主に配当されているのか。水みらい小諸で借入れをしているか。	設立当初は赤字、現在は黒字で、黒字については、今後、小諸市が持続可能な水道事業としていくための支援として事業展開するところの投資を考えている。 株主への配当はしていない。 借入れもしていない。	MMK
	7	株主総会で、小諸市がどのような役割を果たしているか。	小諸市は、委託元でもあると同時に株主でもあり、経営状況にもご意見いただいている。	MMK
	8	水道管の更新は水みらい小諸ではできないのではないかと。	水道施設に関するものは市、水みらい小諸は、ITのシステム化、内部の業務改善など、水道施設以外への投資をさせていただく。	MMK
参加者 D	9	民間なので、赤字であれば撤退もあり得るし、黒字で稼いでいると小諸市からの委託でそんなに稼ぐわけにはいかないと思うが、その点はどうか。	指定管理業務として委託を受けており、5年毎に更新が行われていく。その5年間で事業計画を立て日頃の維持管理業務と、小諸市が抱えている管路更新などの支援をするための事業も展開していき、大きな赤字黒字とならないように計画を立てて進めていく。	MMK
	10	小諸市からの技術の継承はうまくいったのか。	長年水道事業に携わってきた小諸市職員が水みらい小諸に転出して、これまで地元採用のプロパー社員の育成をしてきたが、令和4年度に市へ戻っており、今後は水道経験がない小諸市職員が水みらい小諸で技術を学び、小諸市へ技術を残すように考えている。	MMK
	11	地元プロパー社員と転出社員は、賃金等待遇が違うと思うが、社員間の連携はうまくいっているのか。水みらい小諸が撤退してしまえばプロパー社員は行き場を失うが、そういう点から社員間はどうなっているのか。	転出者、退職派遣者は戻ることができる点で、水みらい小諸で採用された社員とは違いますが、小諸市の水道事業を長期的に継続していくことを会社方針としており、連携できている。 プロパー社員は長野県の給与水準を基に決めており、転出社員は転出元の規程によるため、バランスを見ながら進めている。	MMK

	12	<p>設立時の問題として、世界的には民営化した事業は料金の値上げで潰れていくという心配があったが、今回説明を聞きひとまず安心した。3点ほど質問させていただく。</p>		
	13	<p>経営に係ることとして、委託料は議会の議決が必要ということだが、議会のチェックは水みらい小諸のどこまでチェックできているのか。</p>	<p>議会に予算を説明させていただいており、水みらい小諸の事業も説明しており、分かりやすい資料の説明を求められており、十分に議会のチェック機能を果たしていると考えている。</p>	小諸市
	14	<p>人材育成という点で、小諸市の職員が減ってきている状況で、小諸市の人材育成ができていないか疑問に感じる。小諸市の水道管の老朽化、人口減少による水道料金の値上げ等の大変厳しい課題が迫っている状況を、市職員が減ってきている中で担いきれないということを懸念するが、人材育成はうまくいっているのか。将来の展望も含めてお聞かせいただきたい。</p>	<p>市の退職派遣職員が、地元採用のプロパー社員を育成していくこととしてきているが、市の派遣が3年と決められている中で、3年で引き継ぐことは厳しいと感じている。水みらい小諸が設立して4年が経過しプロパー社員が9人育ってきていることが成果だと感じている。今後、民間の技術力で効果的に運営していくことが課題となってくる。</p> <p>また、市の職員が減っている中で、派遣職員が市へ戻って水道事業に長く携わるといことは難しいという指摘は同じように感じている。そういった状況の中でも水道事業を継続していくための仕組みづくりをすることが我々の使命だと感じており、そのため水みらい小諸だと思っている。そういったことから、市そして議会がチェックを果たしていくことは重要になってくる。今回第1期は今年度までだが、第2期目は中間期にも皆さんに報告ができるようにということを庁内の中でも打合せさせていただいており、しっかりした人材育成をしていこうと考えている。</p>	小諸市
参加者 E	15	<p>今後、市民の意見を反映することが大事な事だと思うが、当時市民懇談会を作るといった話もあったと思うが、市民のかかわり方について、現状と将来について教えて欲しい。</p>	<p>市民懇談会は水みらい小諸設立以前に開かれていて、第1期第2期という形でお集まりいただいていたということは資料を見て承知している。今現在、市民懇談会があって、水みらい小諸があって、市があって、その中で皆さんから将来に向けて議論している動きがあるかという、市民懇談会自体がなく募集もしていない状況ですが、令和7年度に向けて市の経営戦略が改定され、市に答申をあげることになるので、そこで市民への関わりをしっかりと作っていかねばいけないと思っているので、今後皆様にご提示させていただくことをご了承いただきたい。</p>	小諸市
	16	<p>最後に意見を3点ほど述べさせていただきたい。</p> <p>1点目は、議会チェックです。事業の大部分を外部の水みらい小諸が担っている中で、議会がその委託料が適当かどうか分かる状況を作っていただきたい。</p> <p>議会が小諸市民の水を守っていくためのチェックができるようにしてほしい。</p> <p>2点目の人材育成については、水道料金の値上がりの件も含め、市民に言わずらいことも言わなければならない時期に来ていると思う。市内部で計画的に十分議論し、継続的に市民へ報告をしていって欲しい。</p> <p>3点目の市民参加の懇談会については、今回の報告会の参加人数が少ない状況の中で、今回市民参加が大事なことだと改めて感じた。先程の説明でもイベントに参加してきたという報告もあったが、もっと市民と突っ込んで水道事業について話し合う機会を作って欲しいということをお願いしたい。</p>		
参加者 F	17	<p>老朽化が一番心配で、100年使い続けると聞くと益々心配になった。先程、デジタル化というお話があったが、小諸の水道管の種類、材質から、今後の維持管理として、パッチを張るような部分的な補修をするのか、定期的な管路更新を図るのか、今後の考え方を教えて欲しい。</p>	<p>配水管の老朽化については、ダクタイル管では40年間を超える管を経年管と言い、材料的に減価償却が終わった管で一つの目安です。そうはいつでももっと使えるということで60年、80年と設定している。小諸市で言う40年を超える管が、今後10年20年とも少しずつ増えてくる。そうなると漏水は当然増えてくる。漏水したら修理を繰り返していると悪循環になる。</p> <p>これをどこかのタイミングで効率的に更新する事で予防保全に切り替えていく。こういうところを中長期で考えていくことだと思う。</p> <p>データは揃ってきており、現在分析をしている段階。</p>	MMK
参加者 G		<p>民間ならではの創意工夫、アイデアを活用するという話があったが、12月に小諸の水魅力発信プロジェクトの締結が行われることとなっているようだが、小諸の水は美味しいということを発信してガンガン稼いでいただきたいと思う。ウイスキーの蒸留施設もできるということで小諸の水が評価されているということ、硬水、軟水と多様な水があることなどを活かしていただきたい。</p> <p>水みらい小諸が官民連携の成功例として長野県に発信していくことを期待している。</p>		